

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

今年度、本校は創立 90 周年を迎える。昨年度からインターンシップや地域連携等に重点を置いた「地域産業連携重点型」工科高校として再出発したことや、今年度の入学生から「テクスタイル系」を「産業創造系」に再編したことを踏まえて、これまで培ってきた伝統と教育活動を生かし、ものづくり教育を中心とした工業教育を更に実践し、生徒の育成を図る。

本校のミッション（使命）は、「地域社会のリーダーとなり得る人格を兼ね備えた、ものづくりのスペシャリストの育成」であり、『「地域の宝」となる！』というスローガン（標語）を掲げ、経済産業省が提唱する『社会人基礎力』の育成とともに、優れた工業技術や創造性を有する人材を育成する。

なお、「めざす学校像」として、次の 5 点を挙げる。

- 1 国際的な工業人として人権尊重の理念を正しく理解し、豊かな人間性と社会の基本的なルール・マナーを身に付けた、工業のスペシャリストを育成する学校。
- 2 大阪府のリーディング・テクニカル・ハイスクール（LTH）として、府内の工科高校の先導的役割を担い、生徒・保護者・府民の信託に応える学校。
- 3 学校行事や部活動への積極的な参加を通して、礼儀正しい挨拶や規範意識などの社会性を身に付けた生徒を育成する学校。
- 4 地域の「ものづくり教育」の発信源となり、地域に根ざし、保護者や地域から『地域の宝』と信頼される学校。
- 5 生徒から『入学してよかった』『学んでよかった』『卒業してよかった』と言われる学校。

2 中期的目標

1 基礎的・基本的な学力と技術・技能を定着させる学習指導の推進

- (1) 基礎学力の早期定着を図るため、教科横断的な授業を展開するとともに、授業規律の徹底を全教員で実践する。
- (2) 少人数授業や習熟度別授業等を導入（国語・数学・英語・体育・家庭）し、「わかる授業」・「楽しい授業」・「規律ある授業」をめざして、授業アンケート結果等も踏まえて、教員の授業力の向上を図る。
- (3) 授業公開・研究授業などを充実させて、授業内容や指導方法の改善を図る。

※授業公開週間を年 2 回実施、3 教科（国・数・英）の補習を 100 回以上
 入学満足度を 65%以上、登校満足度を 60%以上、授業理解度を 75%以上
 （3 教科の補習：H25 30 回以上、H26 180 回以上）
 （入学満足度：H25 58.4%、H26 60.8%）
 （登校満足度：H25 54.2%、H26 54.4%）
 （授業理解度：H25 65.9%、H26 69.2%）

2 生徒一人ひとりの能力を伸ばす教育の推進

- (1) 「平成 27 年度学校経営推進費事業」により計測機器等を導入し、産業創造系を中心とした実習に活用するとともに、産業財産権を含めた「ものづくり教育」を通して専門性を高め、産業基盤を支える技術と技能など工業技術の進歩や実用新案権などに対応できる能力を育成する。
- (2) 正しい勤労観・職業観を育成するために、「キャリア教育」・「職業教育」の充実を図り、自ら学ぶ意欲や社会・経済の変化に主体的に対応できる力を育成する。
- (3) 支援が必要な生徒については、「個別の教育支援計画」・「個別の指導計画」を作成して校内の支援体制を充実させて、「わかる授業」の推進を図る。

※企業見学は 2 年生全員参加、資格取得者数を 800 名以上、インターンシップ参加者を 90 名以上、就職 1 次合格者を 70%以上で工科高校 3 位以内
 （資格取得者数：H24 827 名、H25 978 名、H26 858 名）
 （インターンシップ参加者：H24 40 名、H25 52 名、H26 80 名）
 （就職 1 次合格率：H25 74.7%【工科高校第 2 位】、H26 87.4%【工科高校第 1 位】）

3 基本的な生活習慣の育成と規範意識の醸成

- (1) 家庭と連携した望ましい基本的生活習慣の確立と、社会性や規範意識、公共心をはぐくむ規律指導を徹底する。
- (2) 中学校や地域の関係諸機関と連携し、生命・安全・人権等に関わる指導を充実する。
- (3) 部活動や学校行事等の活性化を図り、安全で安心な学校づくりに努め、生徒の愛校心を育成する。
- (4) 生徒課題の早期発見と家庭との連携を深め、中途退学者の減少を図る。

※遅刻者数を前年度比 10%減、クラブ加入率を 50%以上、退学率を 2%未満
 （遅刻者数：H24 1,814 名【前年度比 5.1%減】、H25 1,516 名【前年度比 16.4%減】、H26 1,489 名【前年度比 1.8 減】）
 （クラブ加入率：H24 39.4%、H25 41.7%、H26 44.6%）
 （退学率：H24 1.22%、H25 1.22%、H26 2.46%）
 （転退学者：H24 転学 12 名・退学 10 名、H25 転学 13 名・退学 10 名、H26 転学 15 名・退学 20 名）

4 地域と連携した広報活動の充実と開かれた学校づくり

- (1) 入試改革を踏まえた中学校訪問、離職率調査を踏まえた企業訪問を行う。
- (2) 「地域産業連携重点型」工科高校として、『地域の宝』をスローガンにして、地域企業との連携や、行政組織・民間団体と連携してイベントに参加し、生徒のものづくり技術やコミュニケーション能力の向上を図るとともに、活動成果を情報発信する。
- (3) 創立 90 周年式典を準備し、開催する。

※企業連携 10 社以上、離職率 35%未満、啓発活動・学校 PR を 8 回以上、中学校訪問数を 100 校以上、学校 Web ページの更新を 50 回以上
 （中学校訪問：H25 102 校、H26 115 校）
 （卒業後 3 年の離職率：H26 本校調査 [H23.3 卒] 35.1%、厚労省全国高校調査 39.6%）
 （学校 Web ページの更新：H25.5～ 33 回、H26 74 回）
 （課題研究発表会の企業・中学・保護者等の来場者数：H24 32 名、H25 47 名、H26 61 名）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は『入学してよかった』『学んでよかった』『卒業してよかった』の実現に向け、インターンシップや地域連携活動等に精力的に取り組んだ。また、少人数展開を行い、基礎的・基本的な学力と技術・技能を定着させる学習指導を推進した。普通教科の授業は分かりやすいという生徒が 4.3 ポイント増えており、少しずつ効果は表れている。 ・習熟度別授業の実施について、70.7%の教員が肯定している。方策を検討したい。 ・到達度の低い生徒に対する全校的取組みについて、肯定 53.6%と低い値となっている。基礎的・基本的な学力を身に付けるという観点から、対策を擁する問題である。 ・考査時に試験勉強をしているかという問いでは、肯定的な意見は昨年比 9%アップしているが、依然として 54.4%と低くなっている。一方、実験実習などへの評価は昨年比 7.2%下がっているが、71.2%の生徒が肯定的な意見を持っている。この差が生じた要因の精査と改善策の検討が喫緊の課題である。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートにおいては、学校の特色・家庭との連携・進路指導・生活指導の肯定が高い（約 80%）のに対して、授業が分かりやすい（56.4%）・家庭学習ができていない（36.7%）など、学習については低い数字となっている。 ・子どもとの意思疎通ができていないという問いに対する肯定は 3.5%アップし、85.9%となった。一方、担任以外にも気軽に相談できる先生がいるという問いは 2.8 ポイントアップしているものの 48.7%に留まる。カウンセリングマインドを持って生徒指導に当たることの意味を全教職員が再確認するとともに、生徒が教育相談を有効に活用できるよう、啓発に努めることも必要である。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の学校にはない特色がある、生徒指導は組織的に対応できているという問いには、ほとんどすべての教員が肯定的に回答しているが、本校の工業教育は現状のままでよいという問いには 58.6%の教員が否定的な回答であった。本校の工業教育をどのような方向に進めていくのか、今一度熟考すべき時期に来ている。 ・資格や検定取得、クラブ活動、ものづくりについてはほとんどの教員がより活発に行うべきだと考えている。クラブ加入率やものづくり活動などにより積極的に取り組みたい。 ・生徒の個人情報に関する管理システムができていないことについては肯定が 43.9%である。教職員全体へのシステムの周知や習熟に関する研修の充実が課題である。 	<p>第 1 回（7/28）</p> <p>○H27 年度学校経営計画の評価指標について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長欠者数についての質問あり。 ⇒長欠者数は少ない旨の説明を行った。 ・クラブ加入率が 50%を超えるよう対策はしているかの質問あり。 ⇒4 月のクラブ見学会について説明を行った。 ・中学校訪問について、訪問数を追うより訪問地域を絞った方がよいとのご指摘をいただいた。 ・中学生が進路決定を行うぎりぎりのタイミングで、高校説明会を行うのもよいのではないかとのご指摘をいただいた。 ・塾訪問も検討してはとのご指摘をいただいた。 <p>第 2 回（10/20）</p> <p>○教員の処分について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・処分後の系運営、学年運営、クラス運営について説明。 <p>○H27 年度学校経営計画の中間報告について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前半の資格取得者数が少ないようだが、目標数まで到達できそうかの質問あり。 ⇒集計が早かったためであり、到達できると考えている旨の説明を行った。 ⇒受験費用が高額な資格もあり、危惧している旨の説明を行った。 <p>第 3 回（2/24）</p> <p>○入学満足度、登校満足度、授業理解度について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの取り方を検討してはどうか。 ・例えば、不足しているものは何か、して欲しいことはどんなことかなど。 <p>○インターンシップについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受入企業について、泉佐野商工会議所から事業所あてに相談してもらったところ、佐野工科の生徒ならぜひ来てほしいとお話をいただき、紹介できてよかった。 ・佐野工科の生徒は、技術や資格を身に付けている。 <p>○学校経営計画の評価結果について、佐野工科の努力には感心している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、遅刻数を昨年度より大幅に減少させていることは大変なことだ。また、教育活動アンケート（保護者用）から「学校は家庭への連絡や意思疎通を積極的に、きめ細かく行っている」との回答が 98%もいることは凄いことだ。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 基礎的・基本的な学力と技術・技能を定着させる学習指導の推進	<p>(1) 基礎学力の早期定着を図るため、教科横断的な授業を展開するとともに、授業規律の徹底を全教員で実践する。</p> <p>(2) 少人数授業や習熟度別授業等を導入し、「わかる授業」・「楽しい授業」・「規律ある授業」をめざして、授業アンケート結果等も踏まえて、教員の授業力の向上を図る。</p> <p>(3) 授業公開・研究授業などを充実させて、授業内容や指導方法の改善を図る。</p>	<p>(1) 基礎学力の定着に向けた、早朝学習と放課後の補習授業の実施。 ・遅刻・中抜け・無断早退等の根絶。 (指導カードの活用)</p> <p>(2) 少人数授業や習熟度別授業を行い、生徒一人ひとりに応じた指導をする。 (国語、数学、英語の3科目)</p> <p>(3) 授業見学や研究授業を組み入れた授業を実施し、授業力の向上を図る。 ・生徒の興味や関心を引き出し、学習意欲を向上させるために、ICT機器を活用した体験的な教材や指導法を研究・開発する。</p>	<p>(1) 3教科(国・数・英)の補習 100回以上 (H26 180回以上) 入学満足度 65%以上 (H26 60.8%)</p> <p>(2) 登校満足度 60%以上 (H26 54.4%) 授業理解度 75%以上 (H26 69.2%)</p> <p>(3) 授業見学会 2回以上 (H26 2回実施) 若手教員の研究授業 4回以上 (H26 7回実施) 授業改善研修 2回以上 (H26 1回実施)</p>	<p>(1) 200回実施(◎) 国語 漢検6回 数学 補習109回 英語 英検等85回 入学満足度 [生徒] 58.6% (△) 参考 [保護者] 93.5%</p> <p>(2) 登校満足度 [生徒] 53.5% (△) 参考 [保護者] 74.5% 授業理解度 [生徒] 66.8% (△) 参考 [保護者] 56.4%</p> <p>(3) 授業見学会 1回(9月末) + 個別実施(○) 若手教員の研究授業 4回実施(○) 授業改善研修 1回 7月22日実施 2回 3月27日実施(○)</p>
2 生徒一人ひとりの能力を伸ばす教育の推進	<p>(1) 「平成27年度学校経営推進費事業」により計測機器等を導入し、産業創造系を中心とした実習に活用するとともに、産業財産権を含めた「ものづくり教育」を通して専門性を高め、産業基盤を支える技術と技能など工業技術の進歩や実用新案権などに対応できる能力を育成する。</p> <p>(2) 正しい勤労観・職業観を育成するために、「キャリア教育」・「職業教育」の充実を図り、自ら学ぶ意欲や社会・経済の変化に主体的に対応できる力を育成する。</p> <p>(3) 支援が必要な生徒については、「個別的教育支援計画」・「個別の指導計画」を作成して校内の支援体制を充実させて、「わかる授業」の推進を図る。</p>	<p>(1) ものづくり教育を推進するため、実用新案権の学習とともに、機械加工技能士、電気工事士、色彩検定、情報処理能力検定などの資格取得に取り組む。 ・ものづくりに関する競技に積極的に参加出場する。</p> <p>(2) 学校設定科目である1年「キャリアプランニング」、2年「キャリア実現」を活用して、正しい職業観・勤労観や各種の職業に関する知識の理解を深め、進路の自己選択につなげる。 ・進路に関する講話などを計画的に行い、インターンシップや企業見学などで職業観・勤労観を育成し、進路選択の情報提供を充実させ、進路決定の意識を向上させる。</p> <p>(3) 各分掌や教科担当者と担任団が連携し、学習支援や相談機能を充実させ、「わかる授業」の確立と中途退学者の防止を図る。 ・特別支援委員会を活用して、生徒の問題の早期発見と解決を図る。</p>	<p>(1) 資格取得者数 800名以上 (H26 858名) 近畿大会・全国大会入賞 マイコンカー近畿入賞 (H26 近畿準優勝) エコデンカー全国入賞 (H26 全国第3位)</p> <p>(2) 三者面談 3回以上 (H26 3回実施) 進路講話 5回以上 (H26 6回実施) インターンシップ参加者 90名以上(就職希望者1/2) (H26 80名) 就職1次合格率、工科高校の合格率順位 70%以上、工科3位以内 (H26 87.4%、第1位)</p> <p>(3) 教員研修 2回以上 (H26 3回実施) 個別的教育支援計画・指導計画の作成 支援に必要な生徒対象 (H26 6名作成)</p>	<p>(1) 資格取得 774名(△) マイコンカー 近畿大会 Basic Class 個人8位 全国大会出場、団体3位 全国大会15位(○) 電気自動車(エコデンカー) Econe Power in GIFU 第5位 エコデンカー万博 総合10位 全国自動車研究会会長賞(○)</p> <p>(2) 三者面談 6月, 11月, 適宜, 3月(○) 進路講話 5回実施(○) 5/20 1年: マナー講座 5/26 3年: 進学希望者説明会 7/1 1年: インターネットの危険 7/1 3年: 面接演劇 9/6 1年: 職業別説明会 インターンシップ参加者106名(◎) 就職1次合格率 83.9%、工科第2位(◎)</p> <p>(3) 教員研修 3回実施(○) 7/6 進路指導部「面接指導」 10/22 生活指導部「ハラスメント」 12/9 保健人権部 AED 研修 個別の支援計画等の作成(○) 1年生2名 2, 3年生7名</p>
3 基本的な生活習慣の育成と規範意識の醸成	<p>(1) 家庭と連携した望ましい基本的な生活習慣の確立と、社会性や規範意識、公共心をはぐくむ規律指導を徹底する。</p> <p>(2) 中学校や地域の関係諸機関と連携し、生命・安全・人権等に関わる指導を充実する。</p> <p>(3) 部活動や学校行事等の活性化を図り、安全で安心な学校づくりに努め、生徒の愛校心を育成する。</p> <p>(4) 生徒課題の早期発見と家庭との連携を深め、中途退学者の減少を図る。</p>	<p>(1) 基本的な生活習慣を確立するために、担任団と生活指導部が連携し、学年別の生徒情報交換会で課題のある生徒の情報共有を図る。 ・校則遵守を徹底し、日常的に全教員が頭髪、服装、携帯電話等についての指導を行う。また、定期的に全校的な指導を実施し、規範意識の向上を図る。 ・日常的なHR担任による遅刻・欠席指導だけでなく、月初めの一週間「朝の校門指導」を実施する。</p> <p>(2) 中高連絡会に参加し、生徒情報の収集と活用に努める。 ・外部講師による講話など実施して、落ち着いた学習環境と他の人を尊重する心を養う。</p> <p>(3) 個々の生徒の特性に応じた部活動への加入を勧め、全学年において、教員と生徒のつながりを深めるとともに学校への愛着心を持たせる。</p> <p>(4) 課題のある生徒について、教員間で情報共有を行い、家庭との連携を密にして、育成に努める。</p>	<p>(1) 生徒情報交換会 全体2回、個別1回 (H26 2回以上実施) 指導件数 前年比10%減 (H26 13件26名) (27.8%減) 全校集会 6回以上 (H26 10回) 遅刻回数 前年比10%減 (H26 1,489回、1.8%減)</p> <p>(2) 中高連絡会 5回以上 (H26 8回実施) 外部講師の講演会 2回以上 (H26 3回実施)</p> <p>(3) クラブ加入率 50%以上 (H26 44.6%)</p> <p>(4) 退学率 2%未満 (H26 2.46%)</p>	<p>(1) 生徒情報交換会 全体2回(6, 11月)、 個別適宜実施(○) 指導件数 8件8名 前年比38.5%減(◎) 全校集会 9回実施(○) 4, 6, 7, 8, 9, 10, 12, 1, 3月 遅刻回数 948件 前年比36.3%減(◎)</p> <p>(2) 中高連絡会 9回実施(○) 貝塚 3回(5/20, 7/24, 11/30) 泉佐野 1回(9/29) 泉南 1回(10/20) 生活指導4回(6/4, 6/30, 11/5, 11/24) 外部講師の講演会 3回実施(○) 6/3 1年: 視覚障がい 6/10 2年: 薬物乱用防止 12/2 3年: 平和と命の大切さ</p> <p>(3) クラブ加入率 50.6%(◎) 運動部202名、文化部197名</p> <p>(4) 退学率 0.7%(○) 退学者6名</p>

府立佐野工科高等学校

<p>4 地域と連携した広報活動の充実と開かれた学校づくり</p>	<p>(1)入試改革を踏まえた中学校訪問、離職率調査を踏まえた企業訪問を行う。</p> <p>(2)「地域産業連携重点型」工科高校として、『地域の宝』をスローガンにして、地域企業との連携や、行政組織・民間団体と連携してイベントに参加し、生徒のものづくり技術やコミュニケーション能力の向上を図るとともに、活動成果を情報発信する。</p> <p>(3)創立 90 周年式典を準備し、開催する。</p>	<p>(1)H28 入試改革とこれまでの学校実績を踏まえ、中学校訪問を積極的に行い、学校PRに努める。 ・昨年、初めて離職率調査を実施した。この結果を踏まえて、今後の「キャリア教育」「職業教育」に生かすとともに、継続した離職率調査を実施する。</p> <p>(2)地域企業と連携し、ものづくりにおける技術力の向上を図る（インターンシップを除く）。 ・行政機関や民間団体と連携し、様々なイベントに参加して、ものづくりの啓発活動や学校PRを行い、学校 Web ページに情報発信する。 ・地域の企業や中学校の教員を招いて、学校全体で3年生の「課題研究発表会」を実施する。</p> <p>(3)創立 90 周年に向けた事業内容等の検討を行い、式典を成功させる。</p>	<p>(1)中学校訪問数 100 校以上 (H26 115 校) 企業訪問数 50 社以上 (H26 40 社) 離職率 35%未満 (H26 35.1%)</p> <p>(2)企業連携 10 社以上 (H26 4 社) 啓発活動・学校PR 8 回以上 (H26 10 回実施) 学校 Web ページの更新 50 回以上 (H26 74 回) 課題研究発表会 企業・中学・保護者等の 来場者数 10%増員 (H26 61 名)</p> <p>(3)創立 90 周年記念式典 10/31 実施 (H26 準備委員会 3 回)</p>	<p>(1)中学校訪問数 100 校(○) 9 月まで 47 校、10 月以降 53 校 企業訪問数 55 社 (応募前見学を含む) (○) 離職率 32.0%(◎)</p> <p>(2)企業連携 22 社(◎) 連携 8 社 (大紀水産、ダイワ、いこらモール、和泉市、岸和田市、貝塚市、泉佐野市、熊取町) 見学 7 社 (川島織物セルコン、花王、新日鐵住金、日立造船、横河ブリッジ、南海車両工業、府産技研) 外部講師招へい 7 社 (弁理士、AIソリューション、伊波鉄工、溶接協会、アテック、日立ドキュメント、山崎) 啓発活動・学校PR 11 回(○) 学校 Web ページの更新 85 回(◎) 課題研究発表会 59 名(△)</p> <p>(3)創立 90 周年記念式典 10/31(○) 準備委員会 6 回実施+3 月決算予定</p>
---------------------------------------	--	--	---	---